

# 選奨土木遺産 旧岩保木水門

— 釧路市街地や釧路港の発展を支えた歴史的な選奨土木遺産 —

## 令和6年旧岩保木水門が選奨土木遺産に認定



旧岩保木水門は、新釧路川（釧路川新水路）の整備に伴い、平水時には木材運搬などのために釧路川へ水を分け、水利や水運の向上を図る目的で1927年から1931年に建設された水門です。釧路市街地や釧路港の発展を支えた歴史的な土木構造物として評価され、令和6年度に公益社団法人土木学会の「選奨土木遺産」に認定されました。

## 釧路川を象徴する歴史的土木施設

水門完成後、釧網線の全線開通に伴い、木材の輸送が陸上輸送へ転換していったため、水門は閉じたままとなりましたが、岩保木水門は釧路港の発展、道東の中心都市・釧路の発展という歴史を支えた事業を伝える貴重な施設です。



釧路川河口に位置する重要港湾・釧路港  
東港区は水産業の一大拠点として、西港区は東北海道の国際物流拠点として発展

## 広大な釧路湿原に佇む旧岩保木水門



果てしなく広がる釧路湿原。葦原の中にぽつんと建つ岩保木水門は、釧路川と新釧路川の分岐点に位置しています。雄大な自然に囲まれながらも、この水門は治水の要として、釧路の暮らしとまちの発展を支えてきました。その姿は、自然と人の営みの歴史を静かに物語っています。

夕刻、旧岩保木水門は美しい夕日に包まれます。釧路湿原の空と大地を染めながら沈む夕日は全国でも屈指の美しさを誇ります。

大自然の中に溶け込みながら残る岩保木水門は、人が自然と向き合い、治水に挑んだ歴史を今に伝える貴重な土木遺構です。釧路湿原の雄大な景観とともに、その存在は今も変わらず、この地に刻まれています。

